

「2013 あわじ島スポーツフェスティバル inすもと」事業

参加チーム同士の交流を目的に幅広い年代が楽しめる生涯スポーツのイベントを開催

文部科学省では生涯スポーツ社会の実現に向けて、「できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人となることを目指す」という目標を掲げているが、そのモデルケースとなるようなスポーツイベントが毎年、淡路島で開催されている。2013年大会では、子どもたちも参加できる部門や親子で楽しめるスポーツ教室も新設された。

風光明媚な淡路島で開催されているソフトバレーボールとバドミントンの大会

「生涯スポーツ」という言葉を耳にする機会が増えたが、ごく簡単に定義すれば、「生涯を通じて、健康の保持や増進、あるいはレクリエーションを目的に、自分自身のライフサイクルに合わせて楽しめるスポーツ」ということになるだろう。既存のものから新たに考案されたものまで、スポーツ種目は多岐にわたるが、要は勝敗や記録を追い求める競技スポーツとしてではなく、あくまでも楽しむスポーツとして取り組むことが基本である。

国生み神話の残る兵庫県・淡路島では、2010年から毎年2月に、そのモデルケースとなるようなスポーツイベント「あわじ島スポーツフェスティバル in すもと」が開催されている。これは全国に参加チームを募集し、ソフトバレーボール交流大会、バドミントン交流大会を各2日間

にわたって実施するもので、2013年の大会には前者に64チーム、後者に70チームが参加した。なお、ソフトバレーボールはフリーの部・40歳以上の部・60歳以上の部に分かれ、1チーム11名(競技者4名)以内で構成、初日に予選リーグ、2日目に決勝・交流トーナメント戦が行われる。一方のバドミントンは1部(上級)・2部(中級)・3部(初級)に分かれ、1チーム4人以上・6人以内で構成され、1試合3ダブルスの団体戦である(予選・決勝はソフトバレーと同様)。



各チーム熱戦を繰り広げ大会を盛り上げた



イベントを告知するチラシ

バドミントンとソフトバレーボール合わせて134チームが集まった



元オリンピック選手が講師となった親子バドミントン教室

「例年、近畿、中国、四国のチームの参加が多いのですが、これまでに最も遠方から参加されたのは東が埼玉県や新潟県、西は広島県のチームです。初年度はソフトバレーボールが25チーム、バドミントンが40チーム参加しましたが、年を追うごとに増えてきました。それだけこのイベントが全国に浸透しつつある証しだと思いますが、特に60代の参加チームが増えつつあります。みなさん、本当に元気ですよ。また、初回から参加しているチームもバレーが7チーム、バドミントンが6チームあり、「久しぶり〜!」、「今年も来たよ!」があいさつ代わりになっています」と語るのは、大会運営に携わる洲本市教育委員会・事務局の中畑勇さん。

「家族そろって参加できるものを」の声に添えてファミリーの部と親子教室を新設

さらに2013年大会では、新たな試みとして、ソフトバレーボールでファミリーの部(小学生2名+大人2名)が設けられたほか、バドミントンでは親子バドミントン教室が開催された。「参加者に今後の要望をお聞きしていたのですが、家族そろって参加できるものが欲しいという声が多くありました。私たちも、より多くの世代に参加してほしいという願いがありましたから、今回、思い切ってファミリーの部を設けました。当日の参加チームは3チームでしたが、親子で和気あいあいと楽しんでいらっしやっただけで、今後も続けていきたい」と、中畑さん。

親子バドミントン教室では、特別ゲストとして、バルセロナ五輪に出場した岩城ハルミさん、北京五輪に“オグシオコンビ”で出場した小椋久美子さんが招かれた。元オリンピック選手のプレーを目の当たりにでき、しかも一緒にプレーを楽しむことができたのだから、参加した親子にとっては、いい思い出になったに違いない。子どものころからスポーツになじんでおくことが、その後、生涯スポーツを楽しむための素地作りになることは間違いなく、親子

担当者より



参加者の喜ぶ顔や感謝の言葉がうれしい。

あわじ島スポーツフェスティバル in すもと実行委員会
洲本市教育委員会・事務局
中畑勇さん

今回の助成によってファミリーの部という新しい方向性を打ち出すことができましたし、子どもたちの夢を刺激するトップアスリートを招いてのバドミントン教室も実現できました。70代の部も作ってくれという声も出ていますが、今後も柔軟な大会運営をしていきたいと思っています。私自身、この事業にやりがいを感じています。

の交流や子どもの健全育成という意味でも有意義な試みといえるだろう。この2つの新たな試みの実施にあたって、AJOSCの助成が役立てられた。

「生涯スポーツを楽しむ参加者同士の交流を最大の目的に開催しているイベントなので、その輪が広がってきていることが一番うれしいことです。また、2月は観光客が落ち込む時期なのですが、このイベントに参加して、試合後は仲間と淡路島のおいしいものを食べたり、温泉につかることが楽しみだという方やブロック優勝や総合優勝に贈られる特産品や宿泊券などの景品が楽しみだという方も多く、その意味では観光や商業分野への波及効果もあると思います。実行委員会には観光協会の関係者も名前を連ねていますが、今後、さらに観光協会などと連携を深め、スポーツ観光の目玉となるようなイベントにしていきたいと思っています」と、抱負を語る中畑さん。子どもも含め、幅広い年代が参加するイベントに育つよう期待したい。



スポーツを通して親子の絆が深まった